

ギンランの一変異個体について

柳 川 定 春

On a Forma of *Cephalanthera erecta* (THUNB.) BLUME

Sadaharu YANAGAWA

秦野市東地区のコナラ-クヌギ 群集の古い二次林床にキンラン属のキンラン、ギンラン、ササバギンラン、クゲヌマラン(?)の混生している所がある、筆者は1981年4月28日これら4者の生長様式を観察中に、ギンランの唇弁に距のない個体を発見し、5月2日に採集調査した。

この個体は茎の上部に二葉と下部に少数の鞘状葉があり、三花を着け、地上高110mm、茎径1.8mmの小型個体であった。茎の上部は葉裏の脈上より続く白色の突起稜を有し、断面はやや四角形、葉は長楕円形で尖頭、基部は細くなり茎を抱く、長さ36.8-38mm、幅11-15mm、葉脈は5、裏面に隆起し茎の稜に続く。花軸の長さ34mm、花間長は上から7-10mm。苞は披針形鋭尖頭、長さ3-6mm、最下のものは狭長楕円形鋭尖頭の葉状、長さ30mm、幅7mm。花は白色で直立。萼片は舟形の倒披針形鋭尖頭、背萼片の長さ10mm、幅(平圧)2.3mm。側萼片はやや小さく長さ8.5mm、幅2.6mm。花弁は基脚部狭く、倒披針形鈍頭、長さ8.5mm、幅3mmで上側にやや膨出し、中肋に対し不均等。唇弁はへら状の倒披針形鈍頭長さ8mm、幅2.5mm。距、畝条等の附属物なく全縁の花弁状、基脚部も蕊柱基脚と癒合せず、通常ランの唇弁とは全く異なる。蕊柱は背部に2浅溝ある半円筒状、腹面は平で上部に横楕円形の柱頭がある。

長さ4mm、幅1mm。葯は蕊柱の先端に直立し高さ2mm幅1mmの楕円形で腹面に2縦列の開裂を生じ花粉塊を出す。子房は緑色円筒状で長さ6.4mm、径1.5mmである。

この個体は唇弁の他はギンランとの相異点は認められない。たまたま唇弁が祖型に還元された、キリガミネアサヒラン *Eleorchis japonica* var. *conformis* やカキラン *Epipactis thunbergii* のPelorisationしたイソマカキラン *Epipactis thunbergii* f. *subconformis* と同様な変異体であろう。

産地に近い峠の名を借りヤビツギンランと新称する。この標本は神奈川県立博物館に収納した。

文 献

- 牧野富太郎 1949 日本植物図鑑 改訂版 北隆館 東京。
北村四郎, 村田源, 小山鉄夫 1964 原色日本植物図鑑(下) 保育社 大阪。
大井次三郎 1965 改訂新版 日本植物誌 至文堂 東京。
前川文夫 1977 原色日本のラン第4版 誠文堂新光社 東京。
(秦野市, 国立療養所神奈川病院)



図 1 ヤビツギンラン (ギンラン *Chephalanthera erecta* の距のない一型), 秦野市東地区のコナラ林にて (Alt. 150m). スケールは 10mm。

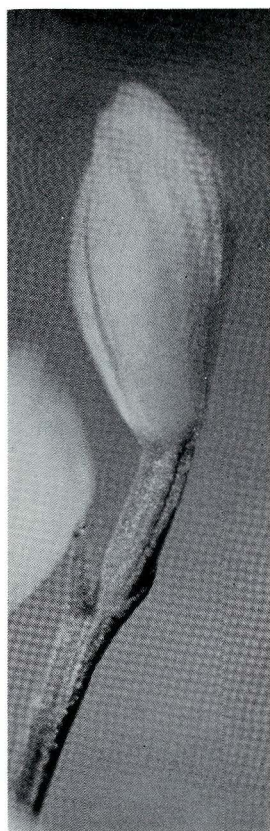


図 2 ヤビツギンラン
May. 2, 1981